

## 管内酪農家での *Mycoplasma bovis* (M.bg) による 乳房炎発生事例

京都府中丹家畜保健衛生所

森 一憲 天野恵里子 種子田 功

【はじめに】マイコプラズマ乳房炎は、伝染力が強く、抗生物質による治療が困難なことから、対策は淘汰が第一選択とされている。平成 21 年 8 月、搾乳牛 30 頭規模の酪農家で乳房炎牛 2 頭の乳汁から、府内で初となる M.bg を検出したので、概要を報告する。【材料及び方法】材料は、発症牛、同居牛の乳汁及びバルク乳とした。マイコプラズマ検査は Hayflick 培地、一般細菌検査は血液寒天、DHL 寒天、食塩卵寒天の各培地を用い定法で行った。マイコプラズマを疑う菌については、PCR 法により同定を行った。【結果及び対策】発症牛 2 頭のそれぞれ 1 分房から M.bg が検出され、一般細菌検査では有意な菌は検出されなかった。発症牛の経過として、1 頭は治癒、もう 1 頭は乳房に硬結が残ったため盲乳処置を実施した。まん延防止対策は、発症牛の隔離が困難であったため、専用ミルカーでの最後搾乳、牛床の石灰消毒を行った。また、間欠的排菌、同居牛への感染を確認するため、発症牛の分房乳、同居牛の乳汁及びバルク乳検査を 4 か月間定期的実施したが、マイコプラズマは検出されなかった。【まとめ】本事例では、*M.bovis* による乳房炎とは異なり、間欠的排菌や同居牛への感染は確認されなかったが、早期にまん延防止対策を行い、排菌状況を確認しながら、病勢に合わせた対策をとることが必要と考えられた。